

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

行動する環境アドバイザーの会報

グリーンニュース 第50号

発行年月日 平成24年 3月25日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

- P1 表紙
- P2 50号の発行に寄せて 群馬県環境森林部長 山口 栄一
- P3 連絡協議会15年を振り返って 協議会代表 鈴木 克彬
- P4 環境政策課より
- P5-7 環境アドバイザー誌上座談会
- P8-9 連絡協議会のあゆみ
- P10 8期登録者データ
- P11 アンケート集計(平成11年と平成23年のデータ比較)
- P12-13 専門部会から
- P14-15 地区からの投稿
- P16 専門部会からの予定、案内

「グリーンニュース」第 50 号の発行に寄せて



「グリーンニュース」は、群馬県環境アドバイザーの会報として、平成 10 年 8 月 1 日に第 1 号が発行されました。今回節目の第 50 号を迎えられたことに対し、心からお祝い申し上げます。また、発行を支えてきた皆様のご努力に敬意を表します。

環境アドバイザー登録者数は、現在 327 名を数えます。子どもたちへの環境教育をはじめ、身近な生活環境の保全から地球温暖化対策まで幅広い分野での活動を通じて、群馬県環境行政の推進に大いに貢献いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、県が昨年策定した「群馬県環境基本計画 2011－2015」では、その基本目標の一つに、「自主的取組と各主体間の連携を進める～地域の環境、身近な環境は県民自ら守る群馬～」を挙げております。各地域における環境保全活動のけん引役である環境アドバイザーの皆様に対する期待は益々高まっています。環境アドバイザーの皆様と連携・協力をさらに深め、素晴らしい群馬の環境を守り、次の世代へ引き継いでゆく取組を推進してまいりたいと考えています。

特に、平成 24 年度から、「ぐんま環境学校(エコカレッジ)」を開講し、地域における環境学習や環境活動を自ら主体的に実践できる人材の養成に取り組む予定です。修了者の中から新たな環境アドバイザーが誕生し、「群馬県アドバイザー連絡協議会」の発展と活発な環境保全活動へと繋げることができればと考えています。

つきましては、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「グリーンニュース」が会員皆様の絆として、これからも末永く発行されますとともに、会員皆様方が益々元気にご活躍されますことを心から祈念申し上げます。

平成 24 年 3 月

群馬県環境森林部長 山口 栄一

連絡協議会 15 年を振り返って



グリーンニュース50号の発行を記念して、今般、特集号が発行されることになりました。そこで、この機会をおかりして連絡協議会発足からの15年を振り返ってみたいと思います。

・・・尚、設立からの年表、推移そして事業等は、当グリーンニュース50号8. 9ページの『あゆみ』欄に纏めましたのでご覧ください・・・

環境アドバイザーの皆さんにご協力いただいた多くの事業の中で特に思い出が深いと思われるものを振り返ってみますと、次の三つが頭に浮かびました。

A 群馬県地域環境学習講座の展開・実施

B マイバッグキャンペーンの各種啓発・実施

C ヨーロッパ(ドイツ・スウェーデン等)手づくり環境視察旅行

A. 地域環境学習講座は、構想、企画から展開、実施、纏め、報告までのすべてを、各地域の環境アドバイザーや関係する団体が行う群馬県の事業で、平成11年度から毎年実施されました。特に平成13年度には、25のブロックで、122回の講座が開催され、環境意識の全県下への展開に大いに貢献しました。

B. マイバッグキャンペーンは、地球温暖化防止活動の一環として、『県民一人一人が出来ることは何か』を問いかける運動として誕生した運動で、県民の多くの方々から共感をいただきました。あちらこちらのスーパーマーケットの店頭に立ち、皆さんと一緒にチラシ配りをしたのも、懐かしい思い出です

C. ヨーロッパ視察旅行は、すべてヨーロッパ在住の知人を通しての手造り旅行の為、多くの収穫を得た有意義な、楽しい旅でした。平成13年は、ドイツとオーストリー。特に『ごみ削減』を第一のテーマとし、スーパーマーケットでのデポジット制度の実態、ごみ処理の有料化制等、発生抑制対策について学びました。平成16年のドイツ、デンマーク、スウェーデンへの視察旅行は、脱化石燃料、脱原発をテーマとして、風力発電、木質バイオマス、屋上緑化の実態等を自分たちの目で見てきました。

ヨーロッパ各国の環境対策は、法整備を含め、具体的な仕組み作りが上手で、日常的に定着されている姿が、強く頭に残りました。

結びとして

環境アドバイザーの皆様には、全くのボランティア状態の中で、群馬県の環境問題の各テーマに対し、熱心にご尽力、ご協力くださっている事を、代表として厚くお礼申し上げます。

今後の益々の活動、発展を祈念して結びと致します。

群馬県環境アドバイザー連絡協議会代表 **鈴木 克彬**

環境アドバイザー、327名登録（平成24年2月29日現在）

21年度4月より、第8期県環境アドバイザー登録者（登録期間：平成21年4月1日～平成24年3月31日）は、平成24年2月29日現在、327名の方の登録をいただいております。各地域で活躍されています。本年度も引き続き、環境アドバイザー事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

県では随時、第9期の環境アドバイザーの登録更新の受付、新規募集をしています。周りの方にもこの制度についてお話しいただき、環境活動に取り組んでいただける方々に紹介していただければ幸いです。

グリーンニュースがダウンロード出来ますのでご利用下さい <http://saposen.kazelog.jp/eco/gn.html>

環境政策課より

「環境に優しい買い物スタイル」の普及について

環境政策課 松村 賢一

県では平成21年度から「レジ袋削減推進協議会」を設置し、「レジ袋無料配布中止（いわゆる有料化）」に取り組んでまいりました。大手食品スーパーを中心に、この取組を県内全域に拡げてゆきたいと考えておりましたが、リーマンショック後の経済情勢等もあり、足並みを揃えることができず、「レジ袋無料配布中止」を推進できない状況にあります。環境アドバイザーの皆様には、平成12年度から平成20年度まで実施してきた「マイバッグキャンペーン」について、店頭啓発などに中心となって取り組んでいただきました。このキャンペーンは、ライフスタイルを見直す県民運動として一定の成果を挙げてきたと思います。しかしながら、せっかく皆様の活動により盛り上がってきた気運が「レジ袋無料配布中止」の取組が進まないため、停滞してしまうのは誠に残念です。



そこで、この3月15日に開催した第7回の「レジ袋削減推進協議会」において、「レジ袋削減」だけでなく、簡易包装の励行、容器包装廃棄物の店頭回収等、環境に優しい買物行動を促進し、地球温暖化防止に向けたライフスタイルの見直しに繋げるための県民運動への転換を提案させていただきました。

この方針については、今後、協議会参加者において検討され、平成24年度に予定される同協議会で具体的な内容が決定される見込みです。

どうか、皆様には、この「環境に優しい買い物スタイル」の普及が推進できるよう引き続き、ご理解・ご協力をお願いします。

グリーンニュース50号記念 環境アドバイザー紙上座談会

グリーンニュースが50号を迎え、環境アドバイザーの歴史も20年を経過しました。今回は環境アドバイザーとして各方面で御活躍をされている皆さんからその思いを語っていただき、これからのアドバイザー制度がどうあるべきかを考えていきたいと思えます。

アドバイザーの皆さんには事前に質問項目に答えていただき、その内容を座談会型式としてまとめさせていただきます。紙面の都合上、一部内容を割愛させていただいた部分もあります。

紙上座談会に参加して下さったアドバイザーの方

城田博巳さん・福田茂子さん(前橋市)草場史子さん・中澤章さん(高崎市)
周東照二さん(桐生市)西村豊さん(太田市)細田貴子さん(館林市)
高田由美子さん(渋川市)辰身武昭さん(藤岡市)磯貝享子さん・吉澤敏則さん(安中市)
鹿沼薫さん(みどり市)司会(群馬県環境アドバイザー事務局)



城田さん



福田さん



中澤さん



草場さん



周東さん



西村さん



細田さん



高田さん



辰身さん



磯貝さん



吉澤さん



鹿沼さん

司会—まず、県内各地域で活躍されている環境アドバイザーの皆さんにお聞きしたいのですが、現在どんな環境活動に取り組んでいるのか教えてください。

細田さん: エコムーブ号の講師(環境学習サポーター)をしています。他にはアドバイザーとしてではないのですが、NPO 法人足元から地球温暖化を考える市民ネットたてばやし、NPO 法人地球温暖化防止群馬県民会議、ISEP(NPO 法人環境エネルギー政策研究所)などでも活動しています。

草場さん: 有機野菜の栽培を行っています。

辰身さん: 現在主たる活動は特にありませんが、エコムーブ号による活動、年に何回か開催される幹事会への出席、森林フェスティバル等の参加、各種見学会への参加等を行っています。

城田さん: 推進員としての温暖化防止活動、サポーターとしてのこどもエコクラブサポート、環境学習、子どもの健全育成を目的とした地域での環境活動を行っています。

周東さん: 使用天ぷら油の回収を呼びかけ、持参してもらっています。その油は桐生・みどり地区のアドバイザーリーダーの方の回収拠点に持ち寄り、処理をお願いしています。植栽活動にも参加しています。さらに様々な機会を通してごみ減量について分別品目の拡大を行政側に働きかけています。

司会 一個人、団体とそれぞれのスタイルで環境活動をされているのですね。ところで皆さんが環境アドバイザーを知り、登録しようとしたきっかけは何だったのでしょうか。

磯貝さん: 松井田町に素晴らしいボランティア精神の方がいらっしゃり、私は引っ越したばかりで「これから住まわせて頂く町に、私が何か役に立てることはありませんか。」と聞きましたところ、「環境アドバイザーというのがあるよ。」と教えてもらい、その位なら私にもできると思って仲間に入れてもらいました。

福田さん: 平成 16 年頃、新潟県及び各地に集中豪雨が続き、その頃から異常気象が頻繁に報道されたことを覚えています。しばらく憂慮しておりましたところ、ちょうど新聞に県で環境アドバイザー募集の記事が掲載されていました。応募に戸惑いましたが、今やらねば…との思いで現在に至っております。

吉澤さん: 散歩中に道ばたに捨ててあるごみが気になり、拾い始めました。また、毎日の生活で排出されるごみが地球環境に負荷をかけていることを知り、どうしたらごみを減らすことが出来るだろうと考えていたところ、新聞で環境アドバイザーという制度があることを知りました。アドバイザーになって、講座等を受けて勉強し、同じ思いを持った人と協力してごみを減らす活動をしたいと思い、登録しました。

鹿沼さん: 平成17年～23年まで群馬県水産資源保護員を任命されていた仲間と共に活動したことがありました。川の汚染による水生生物の弱体化、ゴミの不法投棄、酸性雨による松枯れ、大気汚染、温暖化による海面上昇、アユの冷水病、川鵜による魚の食害等、地球が数々の環境問題をかかえていることを知り、元凶は人間であり私達がそのことを認識して行動すべきでは、と思い登録しました。

高田さん: 愛犬の散歩中(現在はいませんが)に、フンのポイ捨ての多さが気になり、環境に関心を持ち始めました。市役所に行った時に、話が出たのでそれを機に窓口にて登録しました。

西村さん: 地元の環境保全団体で活動していて、会員の中に環境アドバイザーの方がいて誘われました。

研修会の参加や他の団体とも交流が出来るので活動の範囲が知識の向上にもなると思い登録しました。

中澤さん: 近くにお住まいの方と環境問題について語りあううちに大いに感化、触発されて私も登録することとなり、その後は一緒に活動するようになりました。

司会 生活の中のふとした気づきや人との出会いなどをきっかけにしてアドバイザーを知っていただいたのですね。では、皆さんが環境アドバイザーをしていて良かった、勉強になったなど思ったことはどんなことでしょうか。

草場さん: 同じ分野に関心がある人との情報や意見交換ですね。

細田さん: 県内で活動している方々と知り合えたことが良かったです。

城田さん: アドバイザーとしての 20 年近くの活動の中で、全県各地の多彩な環境問題の取り組みや県行政の情報を受けられたこと、更に温暖化問題に関し、環境省や全国センターとの関わりも持てたこと。そして何よりも、私のライフワークとも言える地域の子どもの健全育成、こどもエコクラブサポーターという場を持てたことです。

高田さん: 知れば知るほどに感心したり、感謝、反省の毎日です。今後の家庭地域社会での課題もよりたくさんみえてきました。これからも地域と密着し、良い環境づくりを進めていきたいなと思いました。

吉澤さん: 良かったと思うことは、多くの同じ思いを持った人と知り合うことが出来、そうした方々と一緒に活動が出来ていること、多くの方と交流や研修を通じて、自分の活動の幅が広がったことですね。勉強になったことは、多くの方との交流や研修・見学等を重ねることで視野が広がったことです。

司会— 一人との出会い、仲間同士で考えや情報を交換していくこと、それによってまた環境アドバイザーとして次のステップへと進んでいくことができるのです。このことが環境アドバイザーとしてのメリットなのでしょう。最後になりましたが、これからの環境アドバイザーの望ましい姿、あるべき姿、期待することなどについてどんなお考えをお持ちなのか皆さんから御意見を頂きたいと思います。

周東さん: 例えばごみ減量について、アドバイザーがもっと地域の自治会と連携し、ごみ減量への情報を伝え、市民一人ひとりの意識を変えてゆく活動ができればと思います。さらに、その中で地域での問題点や課題をアドバイザーから集め行政の施策に生かせればと思います。

鹿沼さん: まず、人々が自然の中で遊べる、楽しめる環境作りが必要です。現実の環境問題をより多くの人に知っていただく活動と教育への参加を求め、そのことに対して問題解決の指針を与えていくことが重要であると思います。

西村さん: 私は、環境問題は市民一人一人の意識と行動が重要であると思っています。環境アドバイザーがリーダーシップをとり、地域に密着した活動を行い地域の人の理解を得て賛同者を増やし一緒に活動することが必要と考えています。

辰身さん: 今は、環境アドバイザーの構成年齢が高齢化して、若い人が少ないように思います。メンバーが双方向で活動できるような内容にしないと受け身だけの活動になりがちですね。

中澤さん: 環境問題が山積している、このような状況下において私たち環境アドバイザーができることは自ずから質量ともに限られていますが、せめて精神面においては自己研鑽に励むことはもとより、お互いに切磋琢磨して己の質を上げていく気概を持ち続けていきたいものです。

福田さん: アドバイザーの登録に当たり、各人がエコへの思い抱負があるなか各々の希望とする部会に先ず出席されることが第一歩でありもっとも大事なことと思います。

磯貝さん: アドバイザー各人の精神性を高める教育もお願いいたします。大きなセミナーよりもむしろ数人単位で短時間で有意義に対話できるような教育をお願いいたします。

司会— 今回の座談会で、アドバイザーの方々はスタイルこそ違いますが、一人ひとりが「地球環境に対してこうしていきたい。こうあるべきだ。」という強い思いをもって日々の活動をされていることが感じられました。アドバイザーの制度が始まって20年ですが、この良き伝統をこれからもずっと伝えていき、たくさんの方が活躍していけるよう努めていきたいですね。座談会に参加していただいたアドバイザー皆さん、本当にありがとうございました。

環境アドバイザー連絡協議会の あゆみ

まとめ 鈴木 克彬

年度	登録(期)	登録数(人)	主体性のあるトピックス	グリーンニュース	地域環境学習	マイバックキャンペーン	見学会勉強会等	専門部会(発表会)、連絡協議会等	その他
4	1期	158	環境アドバイザー制度の設立(市町村推薦)						9月に158名でスタート。
5		170		アドバイザー通信No1.2発行					地球サミットセミナー'93参加
6		172							
7		168							
8	2期	300	アドバイザー自主登録へ要綱が改正される。						
9			連絡協議会の設立準備始まる(代表 新井 榮一)						
10			マイバックキャンペーンスタート	1号、2号、3号の発行			廃プラピン、廃プラトレイの行方を探る	マイバック運動の趣旨を県内6カ所で地区別研修会が行われた	8月1日付けで、グリーンニュース第1号発行
11	3期	556	群馬県地域環境学習講座の団体として、地域の啓発活動を推進	4号、5号、6号の発行	14ブロック、72講座		板倉町資源化センター、プラスチック再生工場見学	連絡協議会代表に新井 榮一氏再選	環境アドバイザーの関心事項目アンケート調査。(結果は50号参照)
12			グリーンコンシューマ群馬ネット設立(県内8消費者団体が加盟)	7号、8号、9号、10号発行	23ブロック、112講座	472店舗	赤城青年の家に宿泊研修会開催102名が参加	五つの分散会として話し合いが始まる	環境教育-A、環境教育-B、ゴミ問題、グリーンコンシューマ運動、公害問題
13	4期	610	上毛新聞にアドバイザー12名の提言が掲載、3専門部会の設立と自主活動	11号、12号、13号、14号発行	25ブロック、120講座	546店舗	群馬県環境フェスティバルに参加「バイオマス講演会」(3/17利根沼田森林管理署長 井出光俊 氏)「海外植林に参加して」(11/17日本林業技術協会 馬淵征雄 氏)	専門部会の設立。ごみ問題、環境教育部会、温暖化対策・エネルギー部会	アドバイザー18名、ドイツとオーストリー視察旅行(ごみ問題中心、9泊11日)
14				エコムーブ号導入。アドバイザーの中からサポーターへ	15号、16号、17号、18号発行	17ブロック、75講座	519店舗	アドバイザーによるアドバイザーのための研究集会開催	在日ドイツ人環境講演会開催、赤城青年の家に宿泊研修会、群馬県環境フェスティバルへの参加(県庁前広場)、連絡協議会が「大臣表彰」受ける
15	5期	361	連絡協議会の代表に鈴木 克彬氏選任	19号、20号、21号、22号発行	15ブロック、15講座	499店舗	「ドイツ人から見た環境問題あれこれ」(1/18ゲオルグ レナーツ 氏)「私たちはこれからどう行動すべきか」(グリーンコンシューマー東京ネット 佐野真理子 氏)		第17回ねんりんピックぐんま開催

環境アドバイザー連絡協議会の あゆみ

まとめ 鈴木 克彬

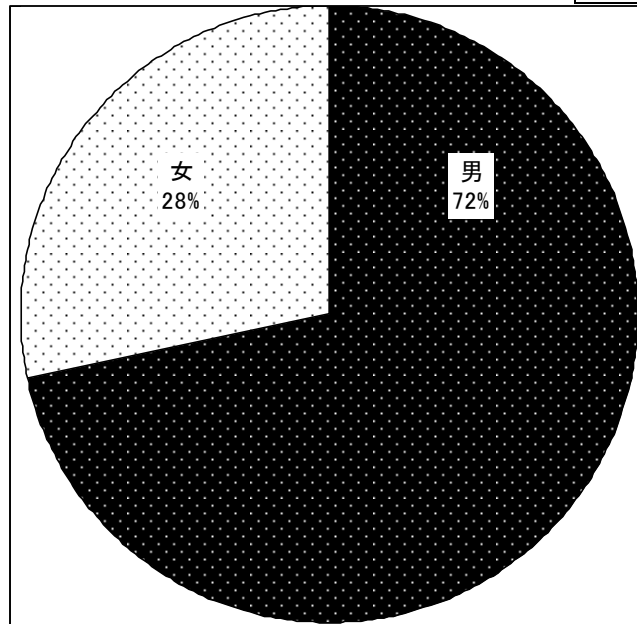
年度	登録(期)	登録数(人)	主体性のあるトピックス	グリーンニュース	地域環境学習	マイバックキャンペーン	見学会勉強会等	専門部会(発表会)、連絡協議会等	その他
16	5期	361	上毛新聞に環境アドバイザー15名が「今・そして未来」と題して提言文掲載	23号、24号、25号、欧州視察特集号発行		613店舗	群馬版パーク&ライドについての研究会「講演」(6/7前橋工科大学 北村直樹 氏 国土交通省高崎工事事務所長 森山誠二 氏) 「スウェーデンの林業経営と木質バイオマスを柱とした環境対策について」(12/4スウェーデン環境ニュース編集長レーナ・リンダ 氏) 「地球温暖化と異常気象について」(2/27岩谷忠 氏)		アドバイザー18名、ドイツ・デンマーク・スウェーデンへ環境問題視察旅行
17	6期	334	環境アドバイザーの専用ホームページの立ち上げ	26号、27号発行(表紙に写真挿入始まる)		582店舗	「実物に接することの大切さ」(7/9昆虫の森園長 矢島修 氏) 「MOTTAINAIと環境」(3/11富士常葉大学教授 松田美夜子 氏)		自然環境部会と広報部会発足(環境教育・学習部会廃部)
18			新井榮一氏が群馬県環境功労賞を受賞	28号、29号、30号、31号発行	30団体、68講座	533店舗	東邦亜鉛、ウブカタ資源、碓井川クリーンセンター 「森は海の恋人」(7/1牡蠣の森を慕う会代表 島山重篤 氏) 「地球環境とエネルギー」(2/24群馬大学工学部長 宝田恭之 氏)		
19	7期	230		32号、33号、34号、35号発行	25団体、51講座	526店舗	「恐竜はなぜ滅んだか、そして人類に未来はあるか」(7/21群馬県立自然史博物館長 長谷川 善和 氏) 「群馬県の森林保全の現状・課題と、今後の対応策について」(12/1群馬県環境森林部長 市村良平 氏)		鈴木 克彬代表が環境大臣表彰を受ける。
20		342	レジ袋無料配布中止運動の計画、検討	36号、37号、38号、39号発行	29団体、59講座	559店舗	低水位水力発電所見学 「お天気キャスターから見た地球温暖化問題」(9/20岩谷忠幸 氏) 「千年の気候も1日の気象から」(2/8北角主任)	高山村菜の花づくりと共有林の手入れ、ゴミ部会削減発表会	
21	8期	271		40号、41号、42号発行	20団体、42講座		サンデン赤城事業所見学 「天文台で環境問題を考える」(7/4ぐんま天文台長 古在由秀 氏)		
22		320	ストップ温暖化!県民アクションへの協力	43号、44号、45号、46号発行	9団体、15講座		あてま高原、玉原発電所見学。ゴミ部会主催で高浜クリーンセンター見学	高山村共有林作業、高浜清掃工場見学、ゴミ部会削減発表会	10月31日環境アドバイザーネットワーク(HP)が閉鎖
23		327	緑のカーテン運動協力	47号、48号、49号、50号発行	23団体、内7団体はNPO関係		バイオマス発電所見学、小水力発電所(新利南発電所)見学	高山村共有林作業、ゴミ部会削減発表会	3月11日東日本大震災発生、福島第一原発で水素爆発が発生、県内にも大きな影響

第8期 環境アドバイザー登録者データ

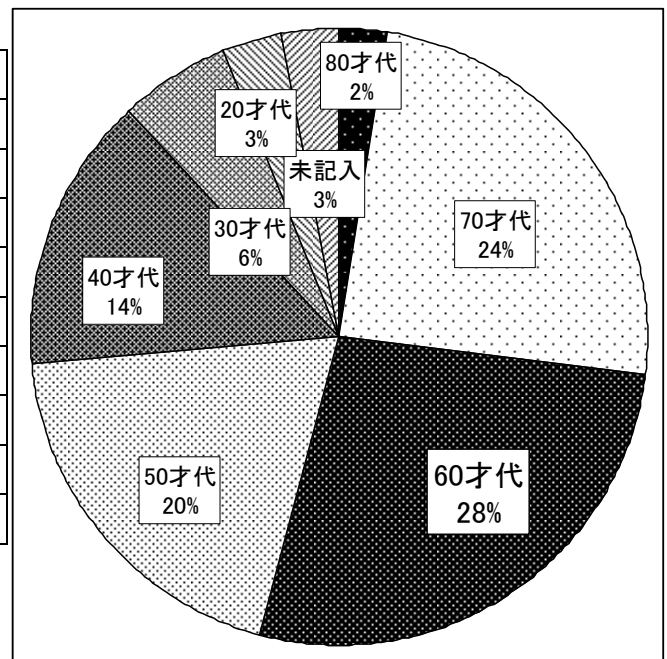
平成21年4月1日から平成24年3月31日までが第8期で、平成24年3月2日時点での登録者、327人のデータです。

男女別		
男	234	71.6%
女	93	28.4%

市町村別登録者数		
市町村名	(人)	割合
高崎市	67	20.5%
前橋市	63	19.3%
太田市	29	8.9%
伊勢崎市	29	8.9%
安中市	22	6.7%
桐生市	18	5.5%
渋川市	16	4.9%
沼田市	11	3.4%
富岡市	11	3.4%
藤岡市	10	3.1%
館林市	8	2.4%
みどり市	8	2.4%
中之条町	7	2.1%
邑楽町	4	1.2%
大泉町	3	0.9%
榛東村	3	0.9%
長野原町	3	0.9%
昭和村	2	0.6%
東吾妻町	2	0.6%
みなかみ町	2	0.6%
甘楽町	2	0.6%
吾妻町	1	0.3%
草津町	1	0.3%
下仁田町	1	0.3%
高山村	1	0.3%
嬭恋村	1	0.3%
明和町	1	0.3%
吉岡町	1	0.3%



年代別 登録者数	
年代	(人)
80才代	8
70才代	80
60才代	89
50才代	64
40才代	47
30才代	19
20才代	10
未記入	10

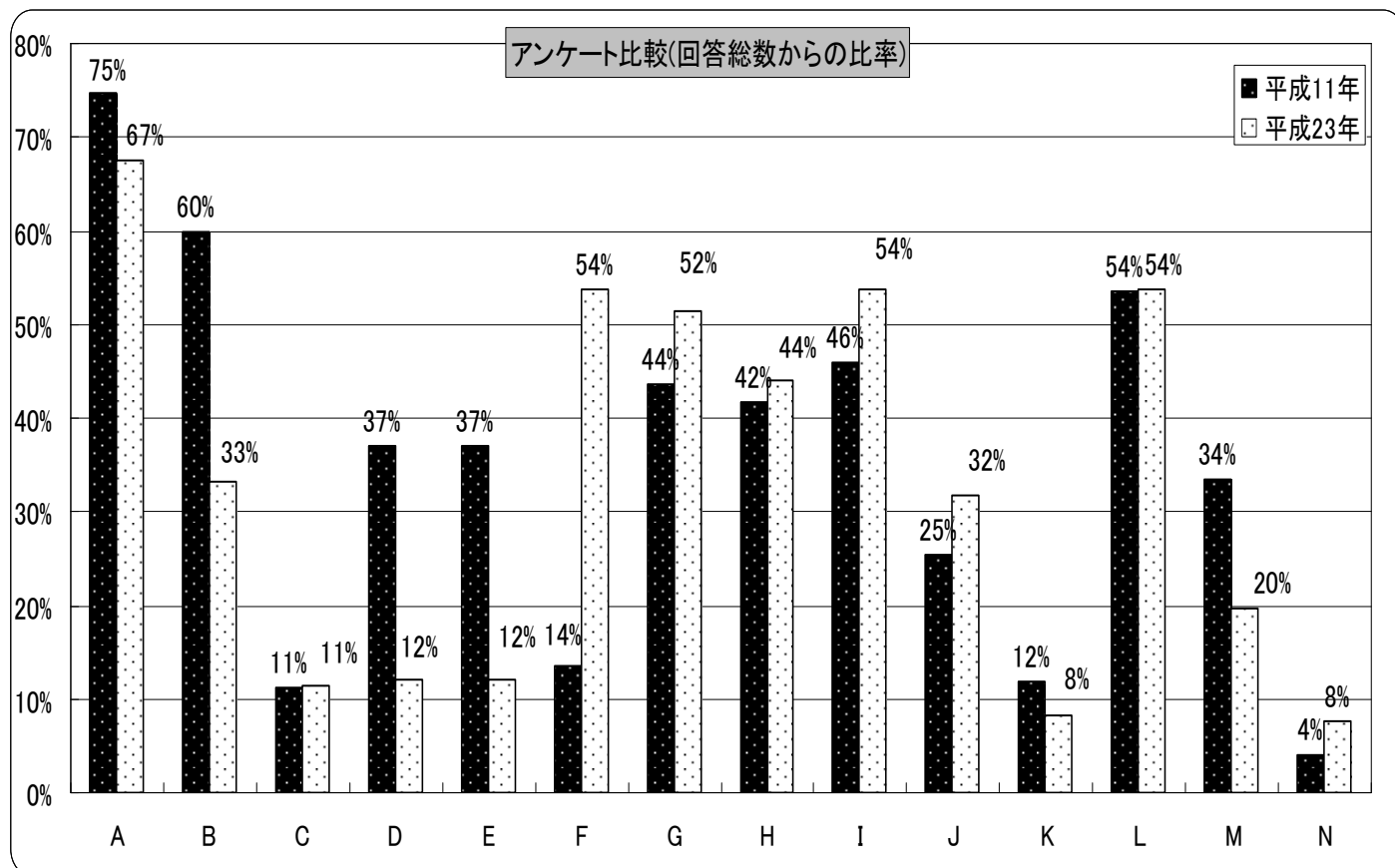


複数登録可 全登録者327名からの比率です		
専門部会	登録数	全体比率
自然環境	96	29.4%
ごみ	50	15.3%
温暖化	75	22.9%
広報	27	8.3%

環境アドバイザー 環境問題の関心項目調査結果

前回は平成11年11月20日の総会時に実施しました(即日回収)。12年以上経過しており課題も時代と共に変化してきていますが、前回と比較するためあえて同内容としました。

前回同様今回も「複数回答可」としております。今回は平成23年2月1日にアドバイザー登録者全員にハガキを郵送し2月10日までに返信をお願いしました。



平成11年は総会時に調査、23年は葉書による返信回答調査。	平成11年 207名対象		平成23年 327名対象		以下、その他の意見、項目等
	回答 170名	82%	回答 132名	43%	
A ごみ問題(一般ごみ、廃棄物処理、不法投棄)	127	75%	89	67%	森林、林業、放射能及び放射線に関すること(除染・計測含む)、放射線物質その単位、環境経営マネジメントシステム、CO2 排出権取引、ISO14001.EA21.GS、省エネ(事業社)者、ISO150001.MFCA等、水河の後退、水環境、太陽光発電、自然エネルギー、地球温暖化
B 公害1(大気汚染、水質汚染、土壌、地下水)	102	60%	44	33%	
C 公害2(騒音、震動、悪臭)	19	11%	15	11%	
D ダイオキシン	63	37%	16	12%	
E 環境ホルモン	63	37%	16	12%	
F 原子力発電	23	14%	71	54%	
G 自然破壊(動物、植物)	74	44%	68	52%	
H リサイクル	71	42%	58	44%	
I 地球環境(オゾン層、温暖化、酸性雨、砂漠化)	78	46%	71	54%	
J 科学技術(省エネ、クリーンエネルギー、クリーンテクノロジー)	43	25%	42	32%	
K 環境計画(ISO 関係)	20	12%	11	8%	
L 市民運動、環境教育	91	54%	71	54%	
M グリーンコンシューマー	57	34%	26	20%	
N その他	7	4%	10	8%	
選択総数	838		608		
一人当たりの選択数	4.9		4.6		

ごみ部会の3年間とこれから

グリーンニュース50号おめでとうございます。

さて、ごみ部会の活動についての活動を振り返りながら、今後の方向性などを考えてみたいと思います。

私が部会の長を仰せつかり、右も左も分からないままの1年目は、マイバッグの推進が主たる議題でありましたが、これは現在迄のところ中休み状態になっている感じが否めません。

大きな理由は県内で複数店舗を展開するスーパー同士の思惑に振り回されているように思えます。事業を営むものの最終目的は“利益”であり、他店との競争に打ち勝つことが必須課題であることは充分理解できますが、結局それは事業者間の狭い視野で見た中での競争であり、企業としていくら環境に優しいことをPRしても地球温暖化防止に積極的に関わっていることには繋がっていないのではないのでしょうか。

また消費者も2円引きに惑わされることなく、当たり前のようにマイバッグを使用するという習慣を身につけてはならないでしょう。残念ながら群馬県民一人当たりのごみ排出量は、全国のワースト2位であることをもっと恥じねばなりません。

今後は家庭内に死蔵されているマイバッグの活用に向けて、部会で検討し、何らかのキャンペーンなどにつなげられないかを考えていきたいと思っています。

2年目以降はごみ処理施設やリサイクル施設等の見学などを積極的に行って来ました。これらの活動の中で得た知見は、部会員それぞれの生活にも生かされていると思います。

ごみ部会の今後としては、やはりごみ問題だけではなく、環境アドバイザー他の部会とも連携を取りながら、総合的な環境施策について検討できればと思います。

問題はごみだけではなく、例えばそのごみが自然環境にどのように影響を与えているのか、ごみのエネルギー化についての現状や方向性はどうなっているのかなど、更に一步深掘りをした議論や研究を進めることにより、群馬県のごみ削減に関してささやかながらも提案としてまとめられればと思います。



(ごみ部会長 須永 徹)

市民活動センター登録団体発表会の報告

過日、環境アドバイザー登録の皆さまに、ご案内した第1回ペポ祭りも2月18日に37団体が参加して盛会裡に無事終了しました。

環境アドバイザーとして日々活動している事項を主にパネル等で展示し、広く市民に理解を深めてもらいたく参加しました。

- 1、群馬のごみ減量方法のパンフとグラフにて説明し協力を呼びかけ。
- 2、国蝶（オオムラサキ）の保護活動5年の経過を写真パネルにて説明。
- 3、高山村森林保護活動5年経過を写真パネルに貼り説明。
- 4、赤城山東面、水沼地区での九輪草の植込みと保護活動。
- 5、尾瀬の美しさと人間活動を通し、改めて自然環境のあり方を共に学ぶコーナーで実験。
- 6、実際に目で確かめてもらい理解を深めて頂く。
 - a、大気の流れを松葉の気孔を顕微鏡で観察して確かめる実験。
 - b、ワットメーターを使って電気の使用量と電気料金の違いを知る。

会場は常時1,000人近い参加者で賑い、さまざまな体験コーナーやステージプログラムなど多彩で、コーラス、もちつき、踊り、演奏ありで大賑い、そのひとつの鈴木代表ご夫婦のフォークダンスでは拍手喝采あり楽しく過ごせた1日でした。



(自然環境部会長 宮崎)

ぺぽまつりの一コマ

地区からの投稿、案内等

1. 高崎地区より

“ 命 ”

先ず地球誕生から語ります。137億年前、ビッグバンにより宇宙が広がり、およそ46億年前に銀河系の片隅で星の一生の最後にあたる爆発がおこり、その影響により、宇宙空間に漂うガスやチリにより微惑星と云われる星が生まれたのです。

そして、それがまとまり、我々の太陽系銀河が出来上がった訳です。

そのエネルギーは、核融合によるものです。私達の身体もそれにより造られています。ですから私達の身体からも地球自体からも放射線は出ています。しかし、それも限度があるのです。ここで事故についての原則を述べます。

一つの事故は29の原因と300の素因から起こると云われています。これは、工事現場には以前から云われていました。一つの素因が、やがて重大な事故につながる事を忘れてはならないのです。そうした原則を忘れ、幾多の事故、失敗を繰り返し今回の大事故に至ってしまったのです。特に原子力に関しては一つの素因も許されないのです。

なぜ人間は愚かなことを繰り返し、反省しないのでしょうか。
未来の地球と子供達の為に原発は、あつてはならないと思うのは私だけではないでしょう。又その対策ですが誠におそまつ。人道上あるまじき行為です。
第一に放射能の広がりや米軍には知らせ、日本国民には一週間以上も発表しなかった事。それで日本人ですか。後から後から愚行が出てくる。わたし達はモルモットですか、そして直ちにの言葉ですが、ただちでなかったらどうなるのだろう。その言葉が今迄公害を広げてきた事につながるのです。ただちにと云う言葉はただちに対策をおこし、ただちに行動をして、直ちに命を守る事に使うべきです。数えれば限りがありません。
次に幼児に対する粉ミルクの事です。一番放射能に対する影響があると云うのに、規制値を始めから厳しくすれば良いのに、かなりの時期が経ってからする。あなた方は国の将来を担う子供のことを本当に真剣に考えていますか。それがくやしい。
また、云います。“ただちに”の言葉の裏には後ではなにかあるだろうと云う意味を含んでいるでしょう。又半減期の事です。一回限りの事でしたら有効でしょうが、それが毎日、毎日放射線を浴びれば半減期はないに等しい事です。
先日4年以内に70%の割合で首都圏直下型地震が起きると発表されました。今度また大事故が起これば日本はおしまいなのです。絶対と云うことは、この世界にはないのです。
今こそ原発を止めなければ将来はない、その事を肝に銘じようではありませんか。



(高崎地区 茂木 良雄)

高崎地区会の活動の様子

2. 伊勢崎地区

老後が楽しい?身近な環境問題への取り組み

最近、環境問題は、国や各種組織だけに任せられず、最後の砦は個人ではないかと感じます。昨年は東北地方太平洋沖地震と東京電力福島原発事故が起きてその感を深めました。
会社を退職、帰農してから、環境アドバイザーに登録し、温暖化・自然エネルギーと自然環境部会に所属中ですが、農業経験もわずかで、仕事・雑用で手一杯と、活動も不十分です。更に農業の前途も不安が一杯です。自分のおかれた立場から、自分の出来る範囲で取り組もうと、老後に向かったの雑草退治の省力化とコスト低減を目標に試行錯誤しています。





そこで、ハナダイコン、リュウノヒゲ、タマリユウ等のグランドカバーで雑草を制御し、除草剤散布の手間やコストの削減を色々実験中です。別の雑草対策がミカン樹を植えて、雑草の抑圧をさせる作戦です。地球温暖化を実感しつつ、果実も食べられる楽しくおいしいテーマでもあります。また、ミカンの花や果実は景観上も趣があり、果実も色々有用に使えます。最近ミカン樹の栽培は環境という点では非常に面白い素材だと思っています。環境アドバイザーの皆さんも、是非ミカン樹栽培を試してみても如何でしょう。

(伊勢崎市 重田 泰嗣)

3. 前橋地区

太陽光発電 ことはじめ

1. 原発事故と自然エネルギー

今日、発電方法に関して、世界各国の原発に対する評価が変化している。

北欧では、原発から自然エネルギーに舵を切り替え始めたし、脱・原発の方向に向かったドイツ・イタリア・スイスなどが、環境問題を真剣に考え始めている。

日本でも菅直人が首相の時、エネルギー基本計画を見直し、原発依存を改める方針を打ち出し、基幹エネルギーとして、太陽光や風力などの再生可能エネルギーを加える事を表明した。

経済産業省はまた、「サンライズ計画」構想を発表、2030年には現在の15倍の太陽光発電を目指すという。

このように、我が国の発電方法は、急速に自然エネルギーが注目される時代を迎えたのである。

2. 日本の太陽発電とその普及率

新エネルギー財団等の資料(2010年)によると、一般家庭における太陽光発電の普及状態は、群馬県の場合、戸建て件数約491,000件のうち、普及率が2.20%、全国順位は24位であった。ちなみに1位は熊本県(4.49%)、2位佐賀県(4.45%)、3位宮崎県(4.44%)と女医3県は全て九州だった。

関東甲信越で見ると、長野県(3.08%)全国11位、山梨県(3.05%)同12位、栃木県(2.66%)同16位と続き、次に群馬県の順だった。

さて、太陽光発電は単純に考えても、日照時間の長い地域が有利であることは理解できる。そこで日照時間(1971~2000年の平均値)全国80地点の結果は以下の通りであった。(県庁所在地)

1位	甲府	2,128時間	6位	高松	2,078時間
2位	高知	2,120	7位	名古屋	2,053
2位	宮崎	2,108	8位	徳島	2,044
4位	岐阜	2,085	9位	前橋	2,038
5位	和歌山	2,083	9位	静岡	2,038

太陽光発電は、日照時間もさることながら、日射量・雲量なども影響すると考えられるが、それにしても群馬(前橋)は好条件に恵まれた地域といえる。

3. 一般家庭の太陽光発電設備

東京電力の発表によると、標準家庭の消費電力量を、300kwh(1ヶ月)としている。1年間では3,600kwhとなる。太陽光発電で年間発電量が 3,600kwh 以上ならば、電力自給自足が可能、と考えられる。太陽光発電用パネルの出力は、1kwh で年間の発電量が 1,000kwh と云われているので、3.6kw 出力の設備を要する。ゆとりを考慮して、4kw 出力程度を計画しておくのが理想的であろう。

昨今、パネルの増産で、輸入品も増加しており、設備費も低下傾向であるが、品質の良い物を選択したい。出力 1kw 当たり 55 万円～65 万円程度と見られる。

発電した電気はまず自家消費のうえ、余った電力は東電が買い取ってくれる。22年度は 1kwh 当たりの買い取り価格が、48 円に決まったが、2年目の今年度は 42 円となった。電力会社の買い取り価格は、毎年見直しが行われる事になっており、太陽光発電を設置した年度の買い取り価格は、10 年間変化無く継続する。

なお、太陽光発電設備導入に関しては、国で出力 1kw 当たり 48,000 円、県は 1kw 当たり 24,000 円(上限 8 万円)のほか、各市町村自治体でも、補助金が出る場合があるので確認しておきたい。補助金額も毎年見直しされるので、注意を要する。

4. まとめ

「理想の電化に電源群馬」(上毛カルタ)。

かつては水力発電県としての再生可能エネルギーを誇りとした群馬県は、全国的にも、日照条件に恵まれた地域であり、地球温暖化防止にも、クリーンエネルギーにも貢献でき、さらには原発抑制にもつながる、と考えられる太陽光発電の普及を、これからも一層進めたいものである。

(前橋市 松井 雄司)



各部会・活動の予定



(情報・話題・連絡・お知らせ etc.)

部会	内容	月/日	時間	(担当)問い合わせ先
広報	GN51 号編集会議 (県庁16階県民サロン)	5月24日(木)	13:30-15:30	原田(027-344-6088)

次回(51号) 2012年7月発行予定 (原稿〆切 6月25日)